



Title	2015年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	面矢, 慎介
Citation	デザイン理論. 2016, 68, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57979
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2015年度 意匠学会論文賞選考結果報告

学会賞選考委員会

副委員長 面 矢 慎 介

受賞論文

サワシユ晃子氏

「20世紀初頭の英国における日本製輸出用キモノの流通と日英業者の相互交渉について」

受賞理由

受賞論文は、日本および英国現地での詳細な資料調査にもとづいて、日本製輸出用キモノの英国における流通について検証を試みたものである。特に当時の英国で需要のあったキモノの色調の変化に着目し、それが日本側業者と英国側業者の相互交渉によることを明らかにしている。20世紀初頭の英国ファッションについてこれまで断片的に言及されてきたキモノについて、それらが実際にどのように流通し、そこに誰がどう関わっていたのか、一般の消費者はどのような形で手に入れたのか等の問いに答える実証的論文となっている。

この論文のすぐれた点は、同テーマに関してこれまでの先行研究ではまだ明らかになっていなかったその実態を、現地美術館・博物館の収蔵物実見を含む日英の資料を駆使して追求していることであろう。論文の構成と論旨には説得力があり、読者はいくつもの新知見を教えられる。輸出用キモノの現地取扱業者を明らかにし、その製品の内容を具体的に考察していること、また、キモノの意匠傾向を製品の色調（濃淡および明暗）に注目して分析することによって、当時の英国での需要動向や製造者の製品企画の内容を明らかにしていることは、特に独創的である。日英のファッション史、デザインにかかわる日英相互交流史に新たな知見をもたらした新鮮な論考であり、意匠学会論文賞として顕彰するに値する。

選考経緯

本論文賞は、『デザイン理論』65号、66号、67号掲載の学術論文16編を対象とし、昨年度までと同じ以下の方法で選考した。まず、5人の論文賞選考委員がそれぞれ上位5編の論文を選び、それを1位から5位までに順位づけした。これを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点と点数化し、集計した。その結果、1位（2編）が13点、次点が8点、3位が7点（以下略）となった。この結果を各選考委員に示し、1位同点の2編を同時授賞候補として5月14日の役員会に提案した。しかし役員会の場において、もう1編の候補論文の著者に

はすでに本賞の受賞歴があることが指摘され、本論文賞の主旨からも重複授賞は見送ることになった。受賞は逃したものの選考委員全員から高評価を得た論文として以下にその名を記しておきたい。入江繁樹氏「〈用〉とは何か：柳宗悦の民藝美学における〈用即美〉の構造をめぐって」である。